

県・市・町の内水対策の取り組みの課題に対する対応状況

No.	機関名	取り組み状況	取り組みに対する課題等	課題に対する検討・対応状況
5	安来市	<p>1. 計画事業 内水対策事業 2. 計画年次 平成23年度～ 3. 計画箇所 福井団地地区、十神地区 4. 取り組みの概要 基本計画策定 本年度において、福井団地地区と十神地区の内水処理計画を策定する。</p> <p>十神地区においては、南十神町と新十神町の2地区のそれぞれについて内水処理計画を策定することとしている。</p> <p>南十神町は、西の川及び前の川に排水ポンプ施設を整備しているが、高潮時の降雨による湛水を排除する能力が低いため、排水ポンプ機能強化や中海護岸整備に併せた西の川への潮止めゲートの設置を検討することとしている。一方、新十神町においては、十神山東側に市の潮止め樋門を設置している排水路であり、排水ポンプによる内水処理を検討する。</p> <p>福井団地地区においては、一級河川吉田川に流入する坂田川、頭無川等の流域において高潮による内水被害が発生している。内水被害発生メカニズムが解らないため、単なる堤防護岸の改善(嵩上げ)だけでは解決できないと判断している。</p> <p>本年度は、流域内の内水被害箇所の現況調査を行うとともに西赤江地区の自治会で設置された協議会と連携を図りながら、内水処理計画の基本的な方針を決めたい。</p>	<p>内水処理計画の策定のために、国や県との計画協議が必要であるとともに、内水被害の早期解消に向けた具体的なスケジュールも併せて協議したい。</p>	<p>今年度からのスタートであり、事業費、事業期間、関連事業等も現段階では全く白紙の状態であり、基本計画を策定した後で事業費、事業期間等の概略が見えてくると考えている。</p>
6	鳥取県 (空港港湾課)	<p>■米子港 ・背後に港湾施設がない地域については、護岸引継に必要な台帳等資料の整理中。</p> <p>■境漁港(県管理漁港) ・漁港区域は、今回の斐伊川水系河川整備計画の中で中期までの整備計画区間に含まれていない。 なお、矢板護岸の防食対策(機能保全事業)を今年度より工事着手予定。</p> <p>[以下、市管理漁港のため 参考] ■渡漁港(境港市管理漁港) ・漁港区域の変更については、国の水産審議会にて承認済。工事完成後、境港市において漁港区域の変更を告示予定。 ・現漁港の財産処分については、境港市が水産庁に申請書を提出予定。 ・工事は今年度国土交通省が予定通り発注予定。 ・漁港区域の埋立申請については、今後境港市の申請をもとに県が承認予定。 ■崎津漁港(米子市管理漁港) ・国土交通省が護岸嵩上げを行い、整備完了。</p>	<p>特になし</p>	<p>■米子港 ・護岸引継に必要な台帳等については概成。 ・平成23年度は、用地境界を明確にする作業や、護岸の健全度調査・点検を行い、円滑に移管できるよう取り組んでいく。 ■境漁港(県管理漁港) ・矢板護岸の防食工事(機能保全事業)については、予定どおり工事着手予定。</p>

県・市・町の内水対策の取り組みの課題に対する対応状況

No.	機関名	取り組み状況	取り組みに対する課題等	課題に対する検討・対応状況
7	島根県 (農村整備課)	<p>1. 島田地区国営代行干拓事業 位置：安来市島田町 工期：昭和26～38年度 工事概要：農地等造成37.3ha（田33.3ha、畑1.8ha、その他2.2ha） ※ 干拓堤防延長1,810m</p> <p>2. 島田地区干拓堤防の管理 管理対象：干拓堤防（延長1.8km、土地1.4ha） 堤防管理者：島根県 管理委託協定S62.4.1付け、 委託者/農林水産省 受託者/島根県 管理概要：県単予算委より管理 H20～ 堤防補修（段階的）実施 H22堤防全区间補修L=1,730m、 事業費1.4億円 H14～ 草刈り等管理実施</p>	<p>・地元から国土交通省への堤防移管要望あり。 ・農政局、県、国土交通省出雲河川事務所、移管 的が農地の保全であること、移管後の維持管理費の 負担等の課題がある。</p>	<p>農政局、国土交通省出雲河川事務所、県で移 管についての協議を継続。</p>
8	島根県 (道路維持課)	<p>木戸川右岸側の河口付近に流出する排水路において、高潮時 の逆流と出水による増水の影響により、一般県道安来港線及び安 来港臨港道路の一部が冠水し、全面通行止め等の通行規制が発 生している。 平成22年度から冠水対策工事を実施し、安全安心な通行の確 保と民生の安定を図る。</p> <p>1. 事業名 県単道路整備(災害防除)事業 2. 工期 平成22年10月～平成23年6月 3. 箇所 安来市安来町 4. 取り組みの概要 ・本体工(吸水槽、吐出水槽) 1式 ・基礎工(PHC杭)N=18本(@L=9m) ・ゲート工 1式 ・揚排水ポンプ(口径350mm、0.28m³/s) 1基</p>	特になし	平成23年6月に冠水対策完了。
9	島根県 (河川課)	<p>1. 計画事業 県単河川緊急整備事業 2. 計画年次 平成23年度 3. 計画箇所 一級河川吉田川 安来市東赤江町福井地区 4. 取り組みの概要 今年度、浸水原因調査及び対策検討を行う。</p>	<p>普通河川の坂田川・頭無川も含めた対策が必要。 今後、国・県・安来市で調整が必要。</p>	<p>平成23年1月に開催された「中海護岸整備等 に関する事務会議(安来市)」において、今年度 浸水原因調査及び対策検討を行うことを説明。</p>

【報告事項】

- 平成22年度水質測定結果
.....(国土交通省、鳥取県、島根県)
- 流動調査結果（本庄水域への流動について）
.....(国土交通省)
- 第5期湖沼計画等の施策の進捗状況
.....(国土交通省、鳥取県、島根県、流域市町)
- 「中海の変遷」初版作成について
.....(国土交通省、鳥取県、島根県、流域市町)
- 両県連携事業について
.....(鳥取県、島根県)

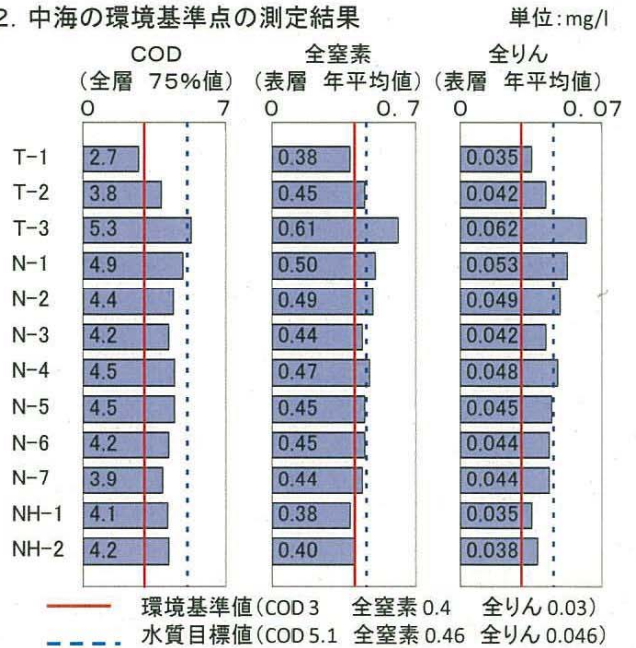
平成22年度水質測定結果について

環境基準点12地点における水質測定結果は、COD(化学的酸素要求量)、全窒素及び全りんについて、いずれの項目も環境基準を達成しなかった(図1、図2)。また、平成25年度を目標年度とした第5期湖沼水質保全計画の目標水質についても、いずれの項目も水質目標値を超過した地点があった。なお、宍道湖において8月から翌年3月までアオコが確認され、中海にも流入した。

図1. 中海の測定地点図



図2. 中海の環境基準点の測定結果



CODについては、4月、1月の値が過去5年と比較して低かった。経年変化について、湖心及び最高地点ともに概ね横ばい傾向である。

全窒素については、7月、1月、3月の値が高かったが、冬季の降水・降雪量は平年に比べ多く、その影響と思われる。経年変化について、湖心は横ばい傾向、最高地点は低下傾向にある。

全りんについては、9月から12月の値が高かったが、梅雨明け以降の晴天・高温続きで湖水の水温が例年よりも高く、底質からの溶出が多く、その影響と思われる。経年変化について、湖心は横ばい、最高地点は低下傾向にある。

透明度については、多くの地点で改善傾向がみられ、溶存酸素、塩化物イオンについては、概ね過去と同様の季節変動がみられた。

図3. 中海湖心における平成22年度水質測定値の経月変化

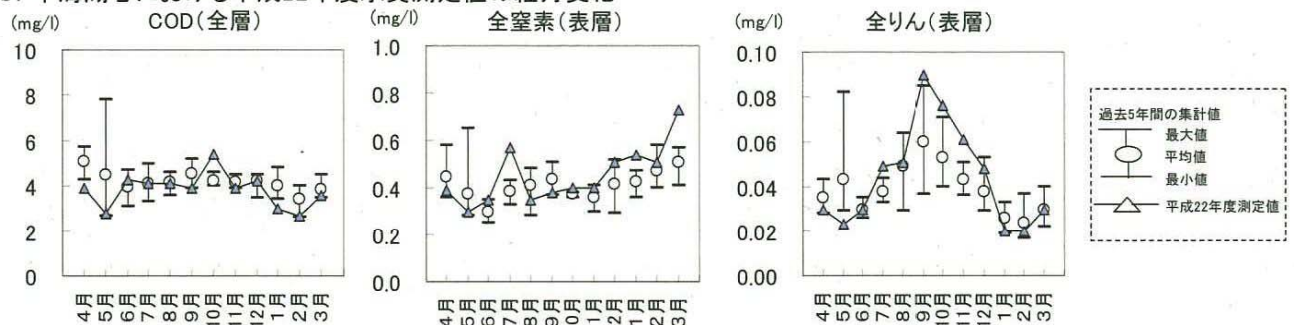
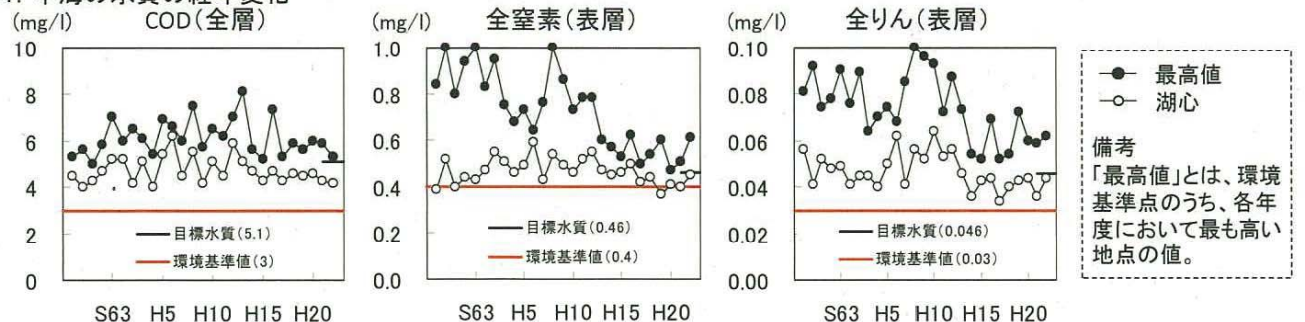


図4. 中海の水質の経年変化



【 備考 】

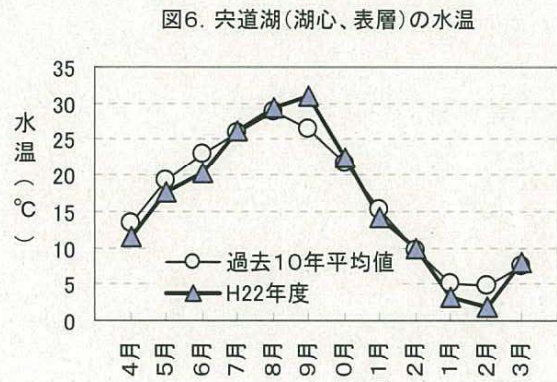
宍道湖東部浄化センターでは平成6年度から、内浜処理場では平成14年度から高度処理を実施。

参考

参考1. 宍道湖におけるアオコの発生状況等について

	出来事等	対応等
H22年8月18日	宍道湖全域においてアオコを確認。	国交省等において、監視パトロールを強化。原因生物種は、「ミクロキスティス イクチオブラーベ」(過去にも同種によるアオコ発生あり)。
10月3日～16日	宍道湖東部沿岸において異臭(ガス臭)がする旨の問い合わせ(40件程度)。	宍道湖周辺の臭気分布調査等を実施。臭気の原因が「2-プロパンチオール」と「ジイソプロピルジスルフィド」であることを特定。
10月中旬	風下側の一部の湾内においては、表面に集積したアオコを確認。	温度耐性、塩分耐性等に関する調査を実施。
11月初旬～12月下旬	中海においてもアオコを確認。	国交省等において、監視パトロールを強化。
H23年3月下旬	宍道湖においてアオコが確認されなくなった。	

春季以降の降水量が平年に比べて多く、4月～9月は宍道湖内の塩分濃度が低く推移していたことと、梅雨明け以降の晴天・高温続きで湖水の水温が上昇し、アオコが発生する条件に適合していたものと考えられる(図5、図6)。



参考2. 平成22年度の気象状況

- ・ 年平均気温(米子)は15.3℃で、平年値(15.0℃)より高かった。
- ・ 年間降水量(米子)は1765.0mmで、平年値(1772.0mm)より少なかった。
- ・ 年間日照時間(米子)は1784.2時間で、平年値(1732.3時間)より長かった。

